

## 総合科目「名古屋の観光」と須田寛先生

昨年につづいて今年も金曜 3 限に総合科目「名古屋の観光」を開講している。昨年ほどではないが、授業公開による聴講生を含め 100 名近くが受講している。3 月に刊行した報告書『名古屋の歴史・文化・まちづくりと観光』がテキストであり、この間の教育研究の成果を講義に反映させている。

12 月 7 日と 14 日の講師は東海旅客鉄道相談役の須田寛先生である。都合により講義開始がすこし遅れるので、それまで私が「前座」をつとめた。



先生の講義は昨年もしっかり受講したが、じつにテンポよく、説得的でわかりやすい。

「鉄道マン」らしく、こちらが指定した時間に正確に終わった。学生や聴講生の感想も好評だった。私も「鉄道マン」の息子らしく、講義などの時間には正確なつもりだが、須田先生を見習いながら「精進」につとめたい。



今回とくに印象に残った指摘を列举しておこう。

まちづくりに繋がる「新しい観光」について。発地型から着地型の観光へ、地域密着型でネットワークとストーリー性のある観光（ひとつの物語で

観光資源を繋ぐ）が重要になってきている。まちづくりに観光という考え方を入れ込むことが大切で、まさに私たちがテーマにしている「観光まちづくり」の考え方である。京都や奈良とは違った、名古屋的な「観光まちづくり」や交流を中長期的な視野から推進していくことが求められている。こうした指摘を参考にして、名古屋の「観光まちづくり」の調査研究をさらに深めていきたい。

(2007 年 12 月 17 日 記)